

令和4年度
琉球大学大学院 人文社会科学研究科
〔博士後期課程〕

学生募集要項

比較地域文化専攻

出願期間	令和4年1月14日(金)～令和4年1月21日(金)
試験日	令和4年2月11日(金)
合格発表	令和4年3月2日(水)

新型コロナウイルス感染症の影響により、本要項の記載内容に変更が生じた場合は、人文社会学部ホームページ (<http://www.hs.u-ryukyu.ac.jp/>) でお知らせしますので、随時確認してください。



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL 098-895-8188

FAX 098-895-8187

目 次

○入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
専攻案内	2
1 募集人員	4
2 出願資格	4
3 出願資格の認定について	5
4 出願手続	5
5 受験時に合理的配慮を必要とする入学志願者の事前相談について	6
6 安全保障輸出管理について	6
7 出願書類	7
8 検定料振込等について	8
9 選抜方法	9
10 試験期日及び試験場	9
11 合格発表	10
12 入学手続	10
13 入学料及び授業料	10
14 授業科目及び授業科目の内容	11

[出願所定用紙]

- 災害等により被災した令和4年度琉球大学入学者選抜試験志願者の検定料に関する特例措置について
（出願所定用紙参照）
- 試験会場案内図
- 試験場案内図

受験に関する問い合わせ先及び学生募集要項等請求先

琉球大学人文社会学部 学務係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL 098-895-8188（直通） FAX 098-895-8187

E-mail hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学人文社会科学研究科ホームページ <http://www.ll.u-ryukyu.ac.jp/graduates/>

琉球大学入試情報 <http://www.u-ryukyu.ac.jp/admissions/>

注：大学院人文社会科学研究科（博士後期課程）学生募集要項の郵送を希望する場合は、封筒の表に『大学院人文社会科学研究科学生募集要項請求』と朱書きし、送付先を明記したレターパックライト（370円）を同封して請求してください。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

【博士後期課程】

比較地域文化専攻

比較地域文化専攻は、従来型の研究者の養成のみを目指すのではなく、高度専門職業人養成を基本とする専攻です。学問的倫理と実践的課題の調和を図り、高度の理論と実践的能力を兼ね備えた人材を養成することが目的です。この目的のために、留学生、社会人を含め、本専攻の学生には高度の専門的知識に加え、下に示したような、高度の調査能力、分析研究能力、応用能力等、総合的な能力が求められます。

- 1) 地域の現実的・実践的課題を学問的理論の応用によって解析し、解決の方法を導き出していく能力。
- 2) 特定の分野の専門家としてだけでなく、琉球・沖縄と世界各地とをつなぐ具体的な課題について多角的な視点から解明していく能力。

専攻案内

1. 目的

本専攻は、本学及び本研究科に蓄積されている豊富な実績を最大限に生かした教育研究を行い、広い視野と国際感覚、地域社会や国際社会で活躍できる高度な専門的能力と総合的判断力を備えた研究者及び専門職業人の養成を目指します。

2. 組織と特徴

(1) 組織

本専攻組織は、人文社会科学研究科博士前期課程の3専攻（総合社会システム専攻、人間科学専攻、国際言語文化専攻）の中から、「琉球・沖縄」、「アジア」、「太平洋地域」、「比較」に関わる分野を抽出した博士後期課程です。

(2) 特徴

本専攻では、「琉球・沖縄」、「アジア」、「太平洋地域」、「比較」をキーワードに、沖縄と周辺諸地域との関連性の解明と比較研究を行います。具体的には、アジア社会学、ことばと相互行為、アメリカマイノリティ文学、アジア文化人類学、アジア物質交流史論、沖縄近現代文学、環境思想、近現代沖縄史学、島嶼空間システム、島嶼観光経済、島嶼環境経済（以上、博士論文指導教員担当分野）を中心に、さらに言語政策、アジア国際関係史、政治学等の分野に関わる科目を提供します。

本専攻は、アジア太平洋地域の知の交流拠点として、地域性と普遍性を踏まえた新しい研究のパラダイムを構築し、その成果を沖縄から世界へ発信するものです。

3. 修業年限 3年

4. 履修方法

(1) 3年間で博士の学位が取得できるよう、「比較地域文化総合演習（8単位）」と「比較地域文化特別研究（8単位）」の二つの必修科目を中心に、選択科目（8単位以上）と併せて計24単位を段階的、計画的に履修する。「総合演習」は総合的学際的な視野にたつて教育研究し、高度の専門職業に携わる能力を涵養できるよう主指導教員と副指導教員を中心とする複数の教員があたる集団指導体制の科目です。「特別研究」は、主指導教員と副指導教員を中心に実施する科目で、研究内容が該当する国内外の学会などでその評価に耐え得るよう、又は、該当する分野・業種で極めて有効な内容になるよう学期毎、年度毎に段階的に指導できるよう編成されています。いずれも複数指導教員制、集団指導体制による科目を中心にした科目編成です。

(2) 社会人特別入試制度により入学した者（社会人）の履修上の便宜を図るための履修方法は以下によります。

- ① 通常の時間帯のほか、特例による授業時間帯をもうけ、3年間の全期間にわたって、特例による授業時間帯において課程修了に必要な単位を履修できます。
- ② 特例による授業時間帯は、原則として夜間の第6, 7時限(18時~21時10分)に設定します。場合によっては、土曜日及び特定の時期に設定することもあります。
- (3) 社会人学生以外の一般学生及び外国人留学生で、指導教員が必要と認めたものについても、上記特例に基づいて開講される授業科目を履修し、課程修了に必要な単位に含めることができます。

5. 長期履修制度について

職業を有している等の事情により、標準修業年限で修了することが困難である学生を対象に、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修させて学位の取得ができるようにする制度です。申請に基づき、研究科が審査し、最長6年間の修業年限で在学し、計画的に課程を修了することになります。

なお、長期履修学生として認められた期間の授業料は、標準修業年限の3年間(6学期)の総額を在学学期で除した額を分割して支払うことになります。

本制度を希望する学生は、事前に希望指導教員に長期履修の必要性を説明し、履修計画を相談した後、承諾を得て**入学手続期間内に申請**してください。

6. 個人情報の取扱い

本学が入学選抜を通じて取得した個人情報については、入学選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 合格者の氏名等を入学手続きに関わる業務で利用します。
- (2) 入学手続き者の氏名等を入学後の学籍管理など、修学に係わる業務で利用します。
- (3) 入学手続き者及び学資負担者の住所・氏名等を授業料徴収など納入金管理に係わる業務で利用します。
- (4) 入学選抜で取得した成績等の個人情報を、入学料免除・授業料免除及び奨学生選考など、修学支援に係わる業務で利用します。
- (5) 個人が特定できないように統計処理したデータを、入学選抜に関する調査・研究などに利用します。

* 本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者の同意を得ることなく他の目的で利用、または第三者に提供することはありません。

令和 4 年度琉球大学大学院人文社会科学研究科 比較地域文化専攻（博士後期課程）学生募集要項

令和 4 年度琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻（博士後期課程）学生を、次のとおり募集します。

1. 募集人員

比較地域文化専攻 4 名（社会人及び外国人留学生を含む）

2. 出願資格

《A. 一般選抜》

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者若しくは令和 4 年 3 月までに学位を授与される見込みの者（1 年次修了者も含む）
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者若しくは令和 4 年 3 月までに学位を授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職単位に相当する学位を授与された者、若しくは令和 4 年 3 月までに学位を授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、若しくは令和 4 年 3 月までに授与される見込みの者。
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項にも規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は令和 4 年 3 月までに授与される見込みの者。
- (6) 外国の学校、上記出願資格（4）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和 49 年文部省令第 28 号）第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）
 - 大学を卒業し、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達したもの又は令和 4 年 3 月 31 日までに 24 歳に達するもの。

《B. 社会人特別選抜》

一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者で、本課程入学までに大学卒業後又は学士の学位取得後4年以上、又は大学院修了後若しくは修士の学位取得後2年以上の社会的経験を有する者とし、有職者に限りません。

《C. 外国人留学生特別選抜》

一般選抜に示す条件のいずれかの資格を有する者で、日本国籍を有しない者。

3. 出願資格の認定について

出願資格(6)～(8)に該当する者は、出願資格の事前審査を行うので、出願に先立って令和3年11月26日(金)までに次の書類を人文社会学部事務室へ提出してください。

(郵送の場合は、11月26日(金)必着、持参する場合は、土・日曜日及び祝日以外の午前9時から午後5時(正午から午後1時までの昼食時間を除く)の間となります。)

- (1) 入学資格個別審査申請書(本学所定の用紙)
- (2) 出願理由書(本学所定の用紙)
- (3) 経歴書(本学所定の用紙)
- (4) 最終学校の成績証明書
- (5) 最終学校の卒業(修了)証明書又は在籍証明書
- (6) 研究業績報告書様式1(本学所定の用紙に、著書、学術論文、研究報告書、卒業論文等の業績の概要をまとめたもの。原著、論文抜刷又はそのコピーを添付すること。)
- (7) 研究経過報告書様式2(本学所定の用紙に、学校等卒業<修了>後の調査研究状況を詳細に記入したもの。)
- (8) 返信用封筒 返信先を明記し、374円分の切手を貼った返信用封筒(長形3号)

4. 出願手続

(1) 出願期間 : 令和4年1月14日(金)～1月21日(金)までに必着

(2) 出願方法 : 出願書類を「書留速達」で所定の期間内に下記提出先に郵送してください。

(3) 出願書類請求及び提出先 : 琉球大学人文社会学部学務係
問い合わせ先 ☎ 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話 : 098-895-8188 Fax : 098-895-8187
Mail : hbgakmu@acs.u-ryukyu.ac.jp

◎募集要項は、琉球大学人文社会学部事務室窓口でも受け取りできます。

◎大学院人文社会科学研究科(博士後期課程)学生募集要項の郵送を希望する場合は、封筒の表に『大学院人文社会科学研究科学生募集要項請求』と朱書きし、送付先を明記したレターパックライト(370円)を同封して請求してください。

(4) 注意事項

- (a) 出願書類を手書きで作成する場合は、黒のボールペンを使用すること。
- (b) 出願後は、いかなる理由があっても出願事項の変更は認めません。
- (c) 出願後は、出願書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはできません。
(災害等により被災した志願者の検定料については、特例措置を実施(人・7ページ))
- (d) 受験票が試験日の1週間前までに届かない場合、及び本研究科の選抜方法に関して照会

- する場合は、人文社会学部学務係（上記 4. (3)）にお問い合わせください。
- (e) 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (f) 志望する研究分野と教員の専門分野とのミスマッチを避けるため、出願前に該当する専門分野の教員に連絡を取ることを推奨します。人文社会科学研究科ホームページ (<http://www.11.u-ryukyu.ac.jp/graduates/>) で博士後期課程（比較地域文化専攻）の担当教員を確認のうえ、出願期間の1カ月前までに、人文社会学部学務係（上記 4. (3)）までメールで問い合わせてください。問い合わせにあたっては、該当する専門分野の担当教員名を明記してください。

5. 受験時に合理的配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

障がい等を有する者、疾病・負傷等により受験上の配慮を必要とする志願者は、あらかじめ本学障がい学生支援室に「受験時における合理的配慮申請書」を提出してください。

申請された配慮事項について、本学において検討し、その結果を「受験時における合理的配慮の検討結果通知書」により郵送にて通知します。検討結果通知書の受領後は、記載事項を確認し同封の書類をご返送ください。

また、上記手続きには1～2週間を要します。合理的配慮の内容によっては対応にさらなる時間を要する場合があります。事前相談は随時受け付けておりますので、早めの相談、申請書提出をお願いします。

受験時に限らず、入学後における修学上の配慮希望については、随時相談を受け付けておりますので、以下の連絡先までご相談ください。

- (1) 申請期間 令和3年12月10日（金）まで
- (2) 申請方法

本学指定の様式「受験時における合理的配慮申請書」を本学ホームページよりダウンロードし、障がい学生支援室へ郵送で提出してください。

必要に応じて、志願者、保護者又はその立場を代弁し得る学校担当者等との面談・聞き取りを事前に行います。

【受験時における合理的配慮申請書】

<https://g-support.std.u-ryukyu.ac.jp/support/download/>

連絡先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
全保連ステーション（大学会館）2階
琉球大学 障がい学生支援室
電話：098-895-8750 FAX：098-895-8791
HP：<https://g-support.std.u-ryukyu.ac.jp>
Eメール：g-support@acs.u-ryukyu.ac.jp

6. 安全保障輸出管理について

琉球大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて、「国立大学法人琉球大学安全保障輸出管理規程」を定め、技術の提供及び貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し、厳格な審査を実施しています。

規制されている事項に該当する場合は、希望する教育・指導が受けられない場合や、希望する研究活動に制限がかかる場合がありますので、外国人留学生の方はなるべく出願前に指導を受けようとする教員と連絡を取るようしてください。

7. 出願書類

出願書類等	適 要	一般 選 抜	社会人 特別選抜	外国人 留学生 特別選抜
①入学志願票	「本学所定の用紙」に必要事項を記入	○	○	○
②受験票・写真票	「本学所定の用紙」に必要事項を記入し、写真は、出願前3か月以内に撮影した正面上半身無帽のもの（縦4cm×横3cm）を貼付	○	○	○
③修了・卒業（見込） 証明書又は資格認定証	出身大学の学長（学部長・研究科長）が作成したもの	○	○	○
④成績証明書	出身大学等の学部長（学長等）が作成し、 厳封したもの	○	○	○
⑤研究計画書	本課程で行う研究の目的、これまでの研究経過、今後の研究計画と研究方法、研究の意義等について、A4用紙（横書き、40字×30行前後）を使って5,000字程度の日本語でまとめたもの	○	○	○
⑥修士論文又は 研究論文の写し	修士論文は審査段階でも可	○	該当者	該当者
⑦受験承諾書	官公庁・会社等に在職のまま、本学大学院に入学しようとする者のみ、本学所定の用紙により提出	該当者	該当者	該当者
⑧日本語力調査書	「本学所定の用紙」を用いること	/	/	○
⑨「住民票」の写し及び 旅券（パスポート写）	現に日本国に在住している外国人は市区町村長発行の記載事項の内容が省略されていないもので、出願前1か月以内に交付されたもの	該当者	該当者	○
⑩検定料納付証明書 （大学用）	入学検定料の振り込みについては「8. 検定料振込等について」を参照	○	○	○
⑪志願者整理票	「本学所定の用紙」に必要事項を記入すること	○	○	○
⑫受験票等送付用切手 374円分	84円切手1枚、290円切手1枚を同封すること	○	○	○
※ 注意事項	<p>ア. 外国において学校教育における16年の過程を修了した者は、最終学校の成績証明書及び卒業（修了）証明書を添付してください。</p> <p>イ. 外国語の証明書には日本語の訳文をつけてください。</p> <p>ウ. 入学検定料は、日本政府（文部科学省）奨学金による外国人留学生については、納付する必要はありません。この場合、国費の留学生であることの証明書を添付してください。</p> <p>エ. 事前に出願資格認定を申請した者は、成績証明書を提出する必要はありません。</p>			

8. 検定料振込等について

(1) 検定料 30,000 円 (別添「検定料振込書」を使用してください)

(2) 振込期間：令和4年1月7日(金)～1月21日(金)

※ 国費外国人留学生及び令和4年3月31日に本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引き続き本課程に進学するものは検定料及び入学料を徴収しない。

(3) 振込方法

ア. 本募集要項添付の「検定料振込書」を使用してください。

検定料振込書の※印欄を黒のボールペンで正確に記入してください。

《依頼日, 入学志願者氏名(フリガナ), 住所, 電話番号, 振込先(枠内に○印)》

イ. 必ず金融機関(銀行等)の窓口で振り込み、ATM(現金自動預払機)は使用しないでください。

ウ. 振込手数料については、志願者本人負担となります。

エ. 金融機関窓口から「検定料納付証明書(大学用)」を受け取る際は、取扱金融機関収納印を確認してください。

オ. 「検定料納付証明書(大学用)」は出願書類に同封して提出してください。

※この募集要項添付の「検定料振込書」が使用できない場合は、各金融機関備付の振込依頼書で振り込んでください。

振込依頼人氏名は、先に募集区分「711」、次に志願者本人氏名としてください。

例 711 ダイガク タロウ

振込先口座、金額及び募集区分は「検定料振込書」で確認してください。

受領書の写しを「検定料納付証明書(大学用)」の代わりに提出してください。

【外国からの銀行振込の場合】

外国から振り込む際は円建てで振り込んでください。

※なお、外国送金にかかる一切の手数料(振込手数料、経由銀行手数料等)は振込人本人の負担とします。

受取人 大学名 University of the Ryukyus

住所 1 Senbaru, Nishihara Okinawa, 903-0213, Japan

銀行名 Bank of the Ryukyus

Branch Office: (支店名) :Ginowan

Account No: (口座番号) :428711

SWIFT コード : RYUBJPJZ

住所 1-5-3 Ginowan, Ginowan Okinawa, 901-2211, Japan 電話番号 : (098)893-2231

(4) 留意事項

ア. 検定料が振り込まれていない場合、「検定料納付証明書(大学用)」が出願書類に同封されていない場合、「検定料納付証明書(大学用)」に取扱金融機関収納印がない場合は、出願書類を受理しません。

イ. 既納の検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

①検定料を振り込んだものの、出願しなかった場合(出願書類を提出しないまま出願期間が終了したり、書類不備等により出願書類が受理されなかった場合)。

②誤って検定料を二重に振り込んだ場合。

③特例措置対象者が検定料を振り込んだ場合。

※上記①、②に該当する場合は、本募集要項添付の「返還金払戻請求書」に必要事項を記入し、払い戻しの理由を選択、氏名欄へ押印のうえ、「検定料納付証明書(大学用)」を貼付して下記へ送付してください(封筒には「返還金払戻請求書在中」と朱書きしてください)。

(返還は銀行振込で行います。本人以外名義口座の場合は必ず続柄も明記してください。

ゆうちょ銀行口座を指定する場合は、振込用の店名・店番・預金種目・口座番号を明記してください。返還には請求書受理後2～3ヶ月程度かかります。)

送付期限：令和4年3月31日(木)

送付先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

琉球大学財務部経理課収入・支出係 TEL 098-895-8058

※上記③に該当する場合は災害等により被災した令和4年度琉球大学入学者選抜試験志願者の検定料に関する特例措置についてを参照のうえ返還手続きを行ってください。

9. 選抜方法

(1) 一般選抜

書 面 審 査	筆 記 試 験 《注》	口 述 試 験
修士論文等について行います。	外国語（英・独・仏・西・中・韓国語）から1科目	修士論文及び研究計画書等の内容について行います。

《注》 語学辞書の持ち込み可（ただし、電子辞書は除く。）

(2) 社会人特別選抜

書 面 審 査	筆 記 試 験	口 述 試 験
修士論文等について行います。	小 論 文	修士論文及び研究計画書等の内容について行います。

(3) 外国人留学生特別選抜

書 面 審 査	筆 記 試 験 《注1・2》	口 述 試 験 《注2》
修士論文等及び 日本語力調査書	小 論 文	修士論文及び研究計画書等の内容について行います。

《注1》 語学辞書の持ち込み可（ただし、電子辞書は除く。）

《注2》 筆記試験・口述試験とも日本語で行います。

10. 試験期日及び試験場

期 日	試験場	科 目	時 間	摘 要
令和4年 2月11日 (金)	文系総合 研究棟 {試験室は 別途指定}	外国語科目	10:00~12:00	一般選抜の受験者
		小 論 文	10:00~12:00	社会人及び 外国人受験者
		口 述 試 験	13:30~	全 員

《注1》 筆記試験の解答にはシャープペンシル・鉛筆のみ使用可能とし、ボールペンは使用不可とします。

1 1. 合格発表

令和4年3月2日(水)午後4時に本学文系総合研究棟に掲示するとともに人文社会学部HPに掲載及び合格者へ通知します。

人文社会学部HP <http://www.hs.u-ryukyu.ac.jp/>

1 2. 入学手続

入学手続は、令和4年3月下旬の予定です。合格者あてに別途通知します。

1 3. 入学料及び授業料

入学料は銀行振込です。詳細は、合格者あて別途通知します。

入 学 料	282,000 円	(予定額)
授業料(前期分)	267,900 円	(予定額)
(年 額)	535,800 円	(予定額)

- (注) ① 上記については予定額であり、入学時及び在学中に金額の改定が行われた場合は改定時から新たな金額が適用されます。
- ② 授業料の納入については、本人の申し出により前期分の納入の際に後期分も合わせて納入することができます。
- ③ 入学料の免除又は、徴収猶予あるいは授業料の免除を希望する者(対象者については、合格者に送付する「入学者心得」で詳しく説明します。)は、所定の免除申請手続を行うことにより、免除の可否が決定されるまでの間、入学料又は授業料の納付が猶予されます。

1 4. 授業科目及び授業科目の内容

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化総合演習Ⅰ・Ⅱ	各2	幅広い視野に立つ研究を志向するよう促す目的で教員全員が担当して行う演習形式の授業である。1年次の院生すべてが前期に受講する必修科目であり、院生は博士論文作成研究として予定している課題もしくは認識について複数回に分けて報告し、質疑応答を受けると同時に自由討論に参加し、視野を広げる。なお、この授業は他の教員や院生も参加できる開かれたものにする。	全教員
比較地域文化総合演習Ⅲ・Ⅳ	各2	幅広い視野に立つ研究を志向するよう促す目的で教員全員が担当して行う演習形式の授業である。2年次の院生すべてが前期に受講する必修科目であり、院生は博士論文作成研究として進めている課題もしくは認識について複数回に分けて報告し、質疑応答を受けると同時に自由討論に参加し、視野を広げる。なお、この授業は他の教員や院生も参加できる開かれたものにする。	全教員
比較地域文化特別研究Ⅰ	2	比較地域文化総合演習Ⅰを履修した1年次の院生を対象とし主指導教員が中心となって、必要に応じ同学の博士課程後期院生を交えて行う演習形式の授業である。博士論文の構想や先行研究の把握、関連資料の状況、必要なフィールドワーク等について研究計画書をもとに指導助言する。そのために受講者は研究計画書を授業の冒頭で提出する義務があり、また教員の求めに応じて論文構想に関する認識について報告しなければならない。なお、指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。	喜納育江 金城盛彦 後藤雅彦 鈴木規之 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳
比較地域文化特別研究Ⅱ	2	2年次前期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主指導教員が中心となって、必要に応じて同学の博士課程後期院生を交えて行う。主指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。研究計画をほぼ決定し、研究に必要な諸資料の検討やフィールドワーク等の展望について指導助言する。受講者は教員の求めに応じて構想や認識について報告しなければならない。	喜納育江 金城盛彦 後藤雅彦 鈴木規之 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化特別研究Ⅲ	2	2年次後期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主指導教員が中心となって、必要に応じ同学の博士課程後期院生を交えて、行う。主指導教員が必要と認める時は、他の教員や博士課程前期院生が出席する。諸資料の検討やフィールドワーク等の達成された成果について受講者に適宜報告を求め、指導助言する。それをもとに受講者は博士論文の具体的な構想をほぼ確定する。	喜納育江 金城盛彦 後藤雅彦 鈴木規之 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳
比較地域文化特別研究Ⅳ	2	3年次前期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主指導教員が中心となって、必要に応じ同学の博士課程後期院生を交えて、行う。主指導教員が必要と認める時は、他の教員や博士課程前期院生が出席する。博士論文の構成やその根拠となる諸資料・理論について指導助言する。それをもとに受講者は博士論文作成に向けて最終段階の作業を行い、後期の論文執筆・推敲につなげる。	喜納育江 金城盛彦 後藤雅彦 鈴木規之 藤田陽子 宮内久光 宮平勝行 稲村 務 新城郁夫 山城 新 鳥山 淳
言語政策特論	2	国内に多言語社会が存在する国においては、中心（多数派）言語と周縁（少数）言語の葛藤、公用語（共通語）の選定・普及、第二言語（外国語）教育等の言語をめぐる様々な問題があり、そのよりよい解決のためには言語政策的な検討及び決定が必要とされる。言語政策として公用語（共通語）の選定・普及も重要な課題であるが、それと同等かそれ以上に重要な課題が少数言語話者の言語権（言語維持、言語教育、民族アイデンティティの確立・維持等）の問題である。この講義では、和文・英文の文献を読みながら言語政策と言語権について学ぶ。	石原昌英
言語政策演習	2	和文・英文の文献を通して、米国（主にカリフォルニア州とハワイ）、及び日本（主に沖縄）等における言語政策と言語権（言語維持、言語教育、民族アイデンティティの確立・維持等）の具体例を検討し、それらを参考にしながら特定のテーマを選定し、研究を深める。また、資料の調査収集と分析方法を学ぶために、インタビュー調査及びアンケート調査を実施し、その内容を分析する。	石原昌英

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
アジア社会学特論	2	グローバル化の中でのアジア社会の変動を、国際社会的な視点と地域研究的な手法で理論的・実証的に研究する。社会科学としての地域研究にその理論的背景を与えるものとして注目されているのが国際社会学である。ここでは、地域研究と国際社会学について沖縄を含むアジアを事例に必要な理論と実証への応用の方法をまず指導する。そして地域研究と国際社会学を接合させた、比較よりも関係性を重視する世界システム論やエスニシティ論の実証への応用についてさらに深く考察していく。	鈴木規之
アジア社会学演習	2	グローバル化が進行する中で、アジアを分析する理論や方法は大きな転換を迫られている。ここでは、国際社会学の視点から持続可能な発展や内発的発展を含むオルタナティブな開発・発展の理論と実践、開発と市民社会、開発と環境、社会変動とエスニシティ、文化のヘゲモニー（アジアにおけるジャパナイゼーション）などをテーマに、アジア（沖縄も含む）におけるフィールドワークも行いながら具体的なテーマをもって演習形式で検討していく。フィールドワークに際しては、調査デザインや技法についても指導する。	鈴木規之
ことばと相互行為特論	2	コミュニケーション行動が織りなす人物像や社会像、文化像を琉球を含む様々な言語共同体を取り上げて比較分析する。会話の組織化、談話の構造、ことばの文化的意味、スピーチの文化コード、文化的認知プロセスなどを対人間のことばと社会的相互行為を精査することによって明らかにする。また、こうしたテーマについてディスカッションを重ね、ことばと社会的相互行為の文化独自性や普遍性について考察する。英文の資料を用い、ディスカッションの一部は英語で行う。	宮平勝行
ことばと相互行為演習	2	ことばと社会的相互行為の研究方法には主として語用論、会話分析、（批判的）談話分析、相互行為分析、ことばの民族誌などが挙げられる。いずれかひとつあるいは複数のアプローチに焦点を当て、一連の研究プロセスを実践を通して学ぶ。さらに、各研究方法の哲学的基盤や理論的背景、課題、最新の傾向などについて琉球を含む多様な言語文化を対象にした事例研究を読み解きながら理解を深める。この授業は受講生によるフィールドリポートを中心に演習形式で行う。	宮平勝行

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
アメリカマイノリティ文学特論	2	モダンからポストモダンの思潮の流れによって再構成されたアメリカ文学の批判体系によって再評価されるようになったいわゆる「マイノリティ」の作家や詩人のテキストについて研究する。書き手によって「マイノリティ」というアイデンティティーを定義する要素は異なるが、この科目では人種、言語、文化、階級、性、そしてセクシュアリティなどの概念にもとづいて「マイノリティ」とみなされる書き手のテキストにはどのような特徴や意義あるのかについて考察し、こうしたテキストが従来の伝統的アメリカ文学観をどのように踏襲しつつ変容させたものであるかについて検討していく。	喜納育江
アメリカマイノリティ文学演習	2	アメリカ文学の中において「マイノリティ」であるという自己認識がどのような文学テキストを生んでいるのかという点を念頭に置きつつ、アメリカの女性文学、アメリカ先住民族文学、チカーノ（ナ）文学といったテキストにおいて、人種、言語、文化、階級、性、セクシュアリティといった要素が書き手の想像力と創造力にいかなる影響をもたらしているか、またアメリカ文学から発信されるそうした文学表現が、これからの世界観や人間像にどのような意味を付与していくのかについても考える。	喜納育江
アジア文化人類学特論	2	中国および東南アジア諸国を中心としたの文化人類学的研究。アジアの民族誌的研究を踏まえた文化人類学的方法論や研究動向について講義する。	稲村 務
アジア文化人類学演習	2	中国および東南アジアを中心とした文化人類学的研究について民族誌的研究や文化人類学的方法論について演習形式で学ばせる。	稲村 務
アジア物質交流史論特論	2	東アジアを中心とした物質交流史論に関する考古学研究の視点と方法を検討する。交流の考古学研究にあたっては、そのモノ自体の分析、すなわちモノの製作から使用、廃棄までの一連の流れの中で分析を行い、その時代性、地域性、背後にある人の活動、さらに交流による地域文化の変化を如何に読みとるかが問題である。琉球列島の歴史的展開の中でも、先史時代に遡って周辺地域との交流が重要な研究テーマとなっており、こうした東アジアにおける具体的な物質交流史を検討の対象とする。	後藤雅彦
アジア物質交流史論演習	2	交流の考古学研究にあたって、そのモノ自体の分析から時代性、地域性、背後にある人の活動、さらに交流による地域文化の変化を如何に読みとるかが問題である。そして、交流の場となった時代、地域は多様なものであり、アジアにおいても交流をテーマにした考古学研究は盛んである。そこで、演習形式を含め、多様な物質交流史の研究事例を検討しながら、交流のあり方に関する比較研究や方法論自体の検証を進め、物質交流史論の課題を検討する。	後藤雅彦

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
アジア国際関係史特論	2	第二次世界大戦以降の国際関係の歴史について、とくにアジア地域に焦点を当てながら分析する。アジアに関して、冷戦史の再検討がどの程度まで進んでいるか、アジアにおいて冷戦とは何であったか、アジアにおける冷戦の遺産とは何か、東アジア共同体の可能性と歴史認識問題についてなど、マクロ的視点から分析していく。現代の国際関係を理解することを通じて、沖縄・日本のこの地域での役割に関する知見が得られる。	金 成浩
アジア国際関係史演習	2	アジア冷戦史における重要なトピックについて詳細な検討を加える。例えば、朝鮮戦争・日ソ国交回復・中ソ対立・沖縄返還・ソ連のアフガン侵攻・韓ソ国交回復などを取り上げ、その研究史、史料公開状況・研究手法・学説の対立についてなど解説しながら、国際関係史における研究手法を解説する。沖縄・日本周辺における個別的に紛争に関する理解を深めることにより、この地域の平和へ寄与できる人材を養成する。	金 成浩
沖縄近現代文学特論	2	沖縄近現代文学に関する諸テーマに関して、歴史社会的背景と作品の構造と特質の関連とを検討する。	新城郁夫
沖縄近現代文学演習	2	沖縄近現代文学に関する諸テーマに関して、歴史社会的背景と作品の構造と特質との関連を理論的かつ実証的に考察する。	新城郁夫
環境思想特論	2	環境思想研究は、環境変化と社会、経済、政治、芸術の変動が相互に影響しあうという前提に成り立っている。本講義では主要なアメリカ環境思想を主軸に、政治、宗教、哲学、文学的言説をとおして多面的に構成される環境思想研究の研究史的基礎を学びながら、実際に沖縄に生成する個別・具体的課題を環境思想的観点から応用分析し、環境思想的研究方法を習得する。	山城 新
環境思想演習	2	本講義では、特にアメリカ環境思想を基礎づける理論的枠組みを学びつつ、実際に現代環境問題に関連づけながら、環境思想的課題と展望について考える。特に、第二次世界大戦以降のアメリカ覇権主義・帝国主義の関わりの中で形成される、アメリカ本土内外の事例、あるいは海域を介した環境問題などをとおして、環境問題の脱領域的側面を環境思想的に考える。	山城 新

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
島嶼環境経済特論	2	環境経済学の理論を基礎として、島嶼地域における環境と経済の関係を考察する。沖縄や多くの太平洋島嶼国のような小島嶼においては、大陸や大規模島嶼との比較において自然環境と経済との関係が非常に強い。自家消費の食糧の供給源として、また観光資源として、自然環境を保全する必要性が認識されている反面、政治的・経済的に脆弱であるため、外国資本による観光開発や他国への漁業権の売却などが外貨獲得手段として行われ、自国の自然や海洋資源の衰退という結果を招いている例もある。こうした独特の状況を踏まえながら、島嶼における環境調和型経済社会を実現するための方策について検討する。	藤田陽子
島嶼環境経済演習	2	沖縄をはじめとする小島嶼国・地域を事例として、環境と経済の関係に関わる諸課題の現状を学び、問題解決の方策について検討する。ケース・スタディに重点を置き、環境経済学の視点を基礎としながら、理論と実際との整合性と乖離について検証し、具体的な問題解決策を探求する。講義は受講生の発表を中心に進め、受講生同士の議論を通して物事を多角的に考察する視野を養う。	藤田陽子
島嶼空間システム特論	2	島嶼空間をシステム（系）として捉え、外部からの様々なインパクトに対してどのように島嶼空間が対応しているかを、島嶼間システムと島嶼内システムの両面において、人口・交通流通、島嶼経済、島嶼社会そして島嶼振興の各事象に関して、理論的に検討する。	宮内久光
島嶼空間システム演習	2	島嶼空間をシステム（系）として捉え、外部からの様々なインパクトに対してどのように島嶼空間が対応しているかを、島嶼間システムと島嶼内システムの両面において、人口・交通流通、島嶼経済、島嶼社会そして島嶼振興の各事象に関して、巡検や現地調査をもとに検討する。	宮内久光
島嶼観光経済特論	2	世界のGDPおよび雇用の約1割は観光産業が占めている。この比率は他産業が脆弱な発展途上国、島嶼地域ではより大きい。授業では観光による島嶼地域の振興の特性、可能性をデータに基づく実証研究の立場から検証する。	金城盛彦
島嶼観光経済演習	2	世界のGDPおよび雇用の約1割は観光産業が占めている。この比率は他産業が脆弱な発展途上国、島嶼地域ではより大きい。授業では観光による島嶼地域の振興の特性、可能性をデータに基づく実証研究の立場から検証する。「島嶼観光経済特論」とは異なり、演習はコンピュータを用いる実習を伴う。	金城盛彦

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
政治学特論	2	沖縄や地域の政治的課題に対して、行政学・地方自治論等の分野を主とする政治学の理論に基づいて分析していく能力の養成を行う。その中でこれまでの政治学的なアプローチの有効性と限界について、吟味を重ねながら、新たなアプローチを模索していく。	島袋 純
政治学演習	2	特に近年の国際関係の変化、移民難民問題を含む国境横断的な人の移動の激化、経済的相互依存の深化、その中での国民国家の変容、自治体政治の変化等を視野に入れ、沖縄や地域の政治的課題に対して、行政学・地方自治論等地域の政治的課題に対して、政治学の理論を具体的に用いて分析する事例的研究を行っていく。	島袋 純
近現代沖縄史学特論	2	沖縄の近現代を考察するうえで重要な諸相を実証的かつ体系的に理解することを目的とする。その際の視点として重視するのは、1920年代以降の沖縄救済論において浮上してきた課題と、戦後に展開される復興・振興をめぐる諸問題との関係性である。その考察を通して沖縄の近現代を貫く問いを見出し、各時期の状況に織り込まれている歴史的な文脈を読み解くことを意図している。	島山 淳
近現代沖縄史学演習	2	沖縄の近現代を考察するうえで重要な諸相について、関連する資料を精読しながら、そこに見出される歴史的な文脈について検討する。その際に、各履修者の研究テーマや問題関心に引き付けた資料分析を積極的に取り入れ、当該資料に見出される歴史的な課題をどのような視点で検討すべきなのかを考察する。その作業を通して、沖縄の近現代に関する歴史的な考察力を深めることを意図している。	島山 淳
比較地域文化特論Ⅰ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未 定
比較地域文化特論Ⅱ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未 定

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化特論Ⅲ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未 定
比較地域文化特論Ⅳ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未 定

*研究指導教員のみが比較地域文化特別研究Ⅰ～Ⅳの担当する。

*学期ごとに開設される授業科目については時間割配当表を公表する。

博士後期課程の出願書類所定用紙

下記の出願書類が添付されていますので，確認してください。

1. 入学志願票
2. 受験票（受験心得）
3. 写真票
4. 受験承諾書
5. 日本語力調査書
6. 受験時における合理的配慮申請書
7. 入学資格個別審査申請書
8. 出願理由書
9. 経歴書
10. 研究業績報告書
11. 研究経過報告書
12. 災害等により被災した令和4年度琉球大学
入学者選抜試験志願者の検定料に関する
特例措置について
13. 検定料免除申請書
14. 返還金払戻請求書
15. 検定料振込書
16. 志願者整理票・宛名票

出願書類は，丁寧に
切り離してください。

	受験番号	※	一般，社会人 外国人留学生
令和4年度 琉球大学大学院人文社会科学研究科（博士後期課程）入学志願票			
フリガナ		国籍名 (外国籍を持つ者)	比較地域文化専攻
氏名			
生年月日	昭和・平成 年 月 日	(満才) 令和4年4月1日現在	男・女
現住所	〒 ー		
	携帯電話		
	メールアドレス		
※大学から緊急連絡がある場合の連絡先を記入する。上記と同じ場合は，記入しなくてもよい。	〒 ー	TEL	メールアドレス
受験科目	外国語科目		小論文 社会人及び外国人留学生特別選抜
本人以外 連絡先	氏名		志願者との続柄 ()
	現住所 TEL		
出願資格	立	大学院 (大学)	研究科 (学部) 専攻 (学科) 昭和・平成・令和 年 月 修了・卒業 (修了・卒業見込)

履 歴			
学 歴	年 月 日		
	・ ・ ・		
	・ ・ ・		
	卒業 以上 学校	・ ・ ・	
		・ ・ ・	
		・ ・ ・	
職 歴	・ ・ ・		
	・ ・ ・		
	・ ・ ・		
上記のとおり相違ありません。			
令和 年 月 日 氏名			
㊟			

- 備考 (1) 記入の際は，本募集要項熟読の上，記入漏れのないようにすること。
(2) 「一般，社会人，外国人留学生欄」(右上)は，該当するものに○をつけること。
(3) ※印欄は，記入しないこと。
(4) 黒のボールペンを使用し，楷書で書くこと。

令和4年度
琉球大学大学院
人文社会科学研究所
(博士後期課程)

写 真 票

受験番号	※	一般, 社会人 外国人留学生
フリガナ		性 別
氏 名	昭和・平成 年 月 日生	男・女
志望専攻	比較地域文化専攻	
受験科目	外国語科目	小 論 文
		社会人及び外国人 留学生特別選抜

※出欠欄	

写真を貼る欄
○写真は、出願前 3ヶ月以内に撮影 した脱帽正面上半 身(4cm×3cm)とし ます。 ○写真の裏に氏名を 記入して貼付する こと。

「一般, 社会人, 外国人留学生欄」(右上)は、
該当する選抜に○をつけること。

(注) ※印欄は、記入しないこと。

令和4年度
琉球大学大学院
人文社会科学研究所
(博士後期課程)

受 験 票

受験番号	※	一般, 社会人 外国人留学生
フリガナ		性 別
氏 名	昭和・平成 年 月 日生	男・女
志望専攻	比較地域文化専攻	
受験科目	外国語科目	小 論 文
		社会人及び外国人 留学生特別選抜

写真を貼る欄
○写真は、出願前 3ヶ月以内に撮影 した脱帽正面上半 身(4cm×3cm)とし ます。 ○写真の裏に氏名を 記入して貼付する こと。

「一般, 社会人, 外国人留学生欄」(右上)は、
該当する選抜に○をつけること。

(注) ※印欄は、記入しないこと。

き
り
と
ら
な
い
こ
と

受 験 心 得

- (1) 受験者は、試験開始 20 分前までに、各試験室前に集合すること。
- (2) 試験開始後 30 分以上遅刻した者は、受験できません。
- (3) 不正行為のあった者は、直ちに退場を命じます。
- (4) 受験に際しては、本受験票を必ず持参すること。

試 験 期 日 及 び 試 験 場 (博士後期課程)

期 日	科 目	時 間	場 所	備 考
令和 4 年 2 月 11 日 (金)	外国語科目	10:00 ＼ 12:00	文系総合 研究棟	一般選抜の 受験者のみ
	小 論 文	10:00 ＼ 12:00	＼	社会人及び 外国人留学生特 別選抜の受験者
	口 述 試 験	13:30 ＼	＼	全 員

受 験 承 諾 書 (博 士 後 期 課 程)

令和 年 月 日

琉球大学大学院人文社会科学研究科長 殿

受験者の職名

氏名

上記の者が、貴大学院人文社会科学研究科を受験することを承諾します。

氏 名

印

本人との関係

事業所等名

現 住 所

電 話 ()

日本語力調査書 (博士後期課程)

志願者氏名 _____ 生年月日(西暦) _____ 年 _____ 月 _____ 日

志願者住所 _____

志願者の母国語 _____

*該当する事項の番号を○印で囲む。

I 聴解力

1. 理解できない。
2. ゆっくりはっきり話せば理解できる。
3. まあまあ理解できる。
4. じゅうぶん理解できる。

II 会話力

1. 少しも話せない。
2. 意志の伝達はできる。
3. ある程度話せる。
4. すらすら話せる。

III 読解力

1. 全く理解できない。
2. やや理解できる。
3. おおよそ理解できる。
4. じゅうぶん理解できる。

IV 作文

1. 全く書けない。
2. やさしい文章は書ける。
3. まとまった文章が書ける。
4. 論理的な文章が書ける。

V 所見 (大学の講義をうける能力等, 総合的な評価)

以上のとおり調査報告します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

調査者勤務先 _____

調査者職名 _____

調査者氏名 (自署) _____ 印

注 この調査書は、高等学校又は大学において日本語を教授している者、政府又は公共団体の責任ある職員にあって日本語を十分理解できる者、若しくは各国在日本大使館員職員によるものでなければなりません。

受験時における合理的配慮申請書

※太枠内の必要事項について、記入願います。

申請日：令和 年 月 日

ふりがな						生年月日	年	月	日	
志願者氏名										
住所	〒									
連絡先	電話：				mail：					
緊急連絡先 (保護者等)	氏名：				電話：			続柄：		
出身学校					担当者					
卒業（見込み） 年月日		年	月	日	○卒業 ○見込	連絡先 (学校)				
入学者選抜区分/出願先 ※入試区分に チェックし、学 部・研究科コース 名を記載してくだ さい。 (複数選択可)	<input type="checkbox"/>	一般（前期）				<input type="checkbox"/>	帰国 生徒			
	<input type="checkbox"/>	一般（後期）				<input type="checkbox"/>	私費 外国人			
	<input type="checkbox"/>	学校推薦				<input type="checkbox"/>	編入学			
	<input type="checkbox"/>	総合				<input type="checkbox"/>	大学院			
	<input type="checkbox"/>	社会人								
※所属学部・研究科 については、専攻/コースまで明記下さい。なお、記入された先へ出願が無かった場合、配慮希望は取り下げ扱いとなります。										
添付書類	<input type="checkbox"/> 診断書写し <input type="checkbox"/> 障害者手帳/療育手帳等 <input type="checkbox"/> 共通テストで受けた配慮が分る資料（配慮決定通知文の写し等）					共通テストでの配慮 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし				

受験時の合理的配慮を希望する事項とその理由 ※枠を塗りつぶすかチェックしてください

試験室や座席に 関する配慮	<input type="checkbox"/> 1階またはエレベーターが利用可能な試験室 <input type="checkbox"/> 洋式トイレまたは多目的トイレに近い試験室 <input type="checkbox"/> 試験室の出入口に近い席 <input type="checkbox"/> 別室試験 <input type="checkbox"/> 特性机の使用（どのような机が必要か記載） <input type="checkbox"/> 窓側の明るい席の指定	配慮を必要とする理由（症状及び学校などの授業での状況）を簡潔に記入して下さい。※ 別途様式（A4用紙・形式問わず）に記載して提出も可能です。
持参して使用する 物に関する配慮	<input type="checkbox"/> 車椅子の持参利用_サイズ <input type="checkbox"/> 物品名：	
介助等に関する 配慮	<input type="checkbox"/> 試験場への乗用車での入構 <input type="checkbox"/> 試験室入口までの付添者の同伴 <input type="checkbox"/> 介助者の配置	
その他の配慮	<input type="checkbox"/> 試験時間延長 <input type="checkbox"/> 拡大回答用紙の準備 <input type="checkbox"/> 拡大文字問題の準備 <input type="checkbox"/> 照明器具の準備 <input type="checkbox"/> 注意事項の文書による伝達	
	<input type="checkbox"/> その他の希望配慮事項等（上記記載事項以外で、希望する配慮事項があれば簡潔に記載してください）。 記載欄：	

その他特記事項：

入学後における配慮を希望の場合事前相談を行いますので、合格後は琉球大学障がい学生支援室へお早めにご連絡ください。

<記載方法について>

(1) 必要事項は全てご記入ください。

(2) 出願先については、必ず専攻及びコース名まで明記してください。

(3) 「入学者選抜区分」については、受験する区分にをしてください。受験予定の区分も同様です。(例：一般選抜前期日程で受験予定のため申請書を提出するが、後期日程でも本学を受験予定の場合は、一般(前期)及び一般(後期)日程の両方にをしてください。)

(4) 共通テストを受験する者で合理的配慮の申請をした場合は、配慮を受けた際の資料も併せて提出してください。

(5) 「出身学校で取られていた特別措置」があれば、具体的にご記入ください。別紙にて任意様式で提出することも可能です。

(6) 「入学後における配慮」を希望する場合は、入学が決定した後(可能であれば入学前までに)学生本人と面談を実施いたします。本学への入学を希望し、入学後の配慮を希望する学生は、障がい学生支援室までご連絡ください。

(7) 「受験時における合理的配慮申請書」を提出した後、本学を受験しないことが決定した場合は、速やかに障がい学生支援室までご連絡ください。

<提出先>

〒903-0213

沖縄県中頭郡西原町字千原1番地〔全保連ステーション(旧大学会館)2階〕
琉球大学障がい学生支援室

<問い合わせ先>

TEL: 098-895-8750 fax098-895-8791

MAIL: g-support@acs.u-ryukyu.ac.jp

(出願資格個別審査用)

令和 年 月 日

令和4年度 琉球大学大学院人文社会科学研究科 [博士後期課程]
入学資格個別審査申請書

琉球大学大学院人文社会科学研究科長 殿

私は、大学院入学資格の個別審査を受けたいので、申請します。

専攻	比較地域文化専攻
フリガナ氏名	印
フリガナ住所	〒 ー TEL () ー
添付書類	①出願理由書 (本学所定の用紙) ②経歴書 (本学所定の用紙) ③最終学校の成績証明書 ④最終学校の卒業 (修了) 証明書又は在籍証明書 ⑤研究業績報告書・様式1 (本学所定の用紙) ⑥研究経過報告書・様式2 (本学所定の用紙) ⑦返信用封筒 [長形3号, 374円切手貼付]

(出願資格個別審査用)

令和 年 月 日

令和4年度 琉球大学大学院人文社会科学研究所 [博士後期課程]
経 歴 書

氏 名 印
性 別 男 女
生 年 月 日 昭和・平成 年 月 日

最終学校（卒業・修了）年月

年 月～ 年 月	卒業・修了
----------	-------

上記卒業（修了）後の職歴（実務経験）、学習歴及び活動歴がある場合は、年代順にその内容についても詳しく記入してください。

期間（年 月～ 年 月）	内 容

研究業績報告書 (博士後期課程)

様式1 (出願資格個別審査用)

氏名						著書名, 論文名及びその概要を以下にまとめること。
著書, 論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は 発表の 年月	発行所, 発表雑 誌等又は発表 学会等の名称		概 要	

著書, 論文等の名称		単著, 共著の別	発行又 は発表 の年月	発行所, 発表雜 誌等又は発表 学会等の名称		概 要

災害等により被災した令和4年度琉球大学入学者選抜試験志願者の検定料に関する特例措置について（博士後期課程）

琉球大学では、令和4年度大学院入学者選抜に関して、被災者の経済的負担を軽減することにより、受験の機会を確保するため、以下のとおり特例措置を実施することとしましたのでお知らせします。

1. 特例措置の対象

令和4年度大学院入試

2. 措置内容

検定料の免除：30,000円

3. 免除の対象者及び必要書類

対 象 者		必 要 書 類
① 東日本大震災，熊本地震，平成30年7月豪雨，北海道胆振東部地震，令和元年房総半島台風，東日本台風及び令和2年7月豪雨における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で，ア．イ．のいずれかに該当する者	ア 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊，大規模半壊，半壊，流失した場合	り災証明書
	イ 主たる家計支持者が死亡，又は行方不明の場合	死亡又は行方不明を証明する書類
② 居住地が福島第一原子力発電所事故により，帰還困難区域，居住制限区域及び避難指示解除準備区域に指定された者		被災証明書

4. 申請方法

本学所定の様式（検定料免除申請書）に，り災証明書等を添えて，出願書類とともに同封のうへ提出してください。

なお，申請する場合は，「検定料」を振り込まないでください。

5. 返還手続

すでに納付した「検定料」の返還を希望する場合，（「8.の(4)留意事項イ.③」参照）は，本学所定の様式（返還金払戻請求書）に，り災証明書等を添えて，人文社会学部学務係へ申請してください。

※返還金払戻請求書の提出期限は，令和4年3月31日（木）です。

6. 提出先

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
国立大学法人 琉球大学人文社会学部学務係
電話 (098)-895-8188

検定料免除申請書（博士後期課程）

令和 年 月 日

国立大学法人
琉球大学長 殿

(請求者)

受付番号（大学側で記入）

入学者選抜試験の種類

■大学院入試

出願研究科 琉球大学大学院 人文社会科学部研究科

出願専攻 比較地域文化 専攻

フリガナ

志願者氏名

印

住 所 〒

電 話

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、平成28年4月14日に発生した熊本地震、平成30年7月豪雨、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震、令和元年房総半島台風、東日本台風及び令和2年7月豪雨において、下記のとおり被災しましたので、被災証明書等を添付の上、検定料の免除を申請します。

記

被災状況（該当箇所をチェックしてください。）

- 全壊 大規模半壊 半壊 流出
学費負担者死亡又は行方不明
福島第一原子力発電所事故による避難区域等

(記入上の注意)

この検定料免除申請書はコピーして使用してもかまいません。

返還金払戻請求書(博士後期課程)

国立大学法人
琉球大学長 殿

請求者

〒

住 所

フリガナ

氏 名

印

電話番号

私が令和 年 月 日に納付した検定料 円について、以下の理由により払い戻しを請求します。

- 誤納
- 出願辞退 ※受験辞退ではなく、出願しなかった方が対象です。
- 書類不備等による出願書類の不受理
- 災害等による入学検定料の特例措置に該当
- その他()

次の銀行口座へ振り込んでください。

フリガナ				保護者名義の 場合の続柄
口座名義				
取引金融機関名 本・支店名	銀行		支店	
預金種別	1 普通		2 当座	
口座番号	(店番)	-	(口座番号)	

預金種別欄は、該当項目番号を○で囲んでください。

[注意]

- ※ 請求者は志願者本人としてください。
- ※ 保護者等、請求者以外の口座名義を指定する場合は、続柄も記入してください。
- ※ ゆうちょ銀行口座へ振り込みを受ける場合は、振込用の店名・店番・預金種目・口座番号が必要です。振込用の店名・店番・預金種目・口座番号が分からない場合は口座を開設したゆうちょ銀行へご確認ください。
- ※ 封筒には「返還金払戻請求書在中」と朱書きしてください。
- ※ 返還には請求書受理後2～3ヶ月程度かかります。

送付先 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
琉球大学財務部経理課収入・支出係
TEL:098-895-8058取扱金融機関収納印が押印された
検定料納付証明書(大学用)
をこの枠内に貼り付けのうえ、ご提出
ください。※払戻理由のうち、4. 災害等による入
学検定料の特例措置に該当を選択され
た場合は貼り付け不要です。※各金融機関備付の振込依頼書で振
り込んだ場合は、受領書を同封くださ
い。

記入上の注意

- 「検定料振込書」の※印欄を黒のボールペンで正確に記入してください。《依頼日，入学志願者氏名（フリガナ），住所，電話番号，振込先（枠内に○印）》
- 必ず金融機関（銀行等）の窓口で振り込み，ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。
- 振込手数料については，志願者本人負担となります。
- 金融機関窓口から「検定料納付証明書（大学用）」を受け取る際は，取扱金融機関収納印を確認してください。
- 「検定料納付証明書（大学用）」は出願書類に同封して提出してください。

※人文社会科学研究所 博士後期課程

検定料納付証明書（大学用）

★出願書類に同封して提出ください。

※依頼日	年 月 日	
金額	¥30,000-	
※振込先	琉球銀行宜野湾支店（普通）	428711
	沖縄銀行我如古支店（普通）	1540366
	沖縄海邦銀行真栄原支店（普通）	0563358
	みずほ銀行那覇支店（普通）	1478859
※募集区分	711	
※（志）依頼者人	（フリガナ）	
	氏 名	
令和4年度 琉球大学 検定料 人文社会科学研究所（博士後期課程）		



（取扱店→振込人→大学）

（振込前に志願者で切離し）

※依頼日	年 月 日	
振込金額	¥ 30,000-	
※振込先	琉球銀行宜野湾支店（普通）	428711
	沖縄銀行我如古支店（普通）	1540366
	沖縄海邦銀行真栄原支店（普通）	0563358
	みずほ銀行那覇支店（普通）	1478859
受取人口座名	国立大学法人 琉球大学	
※（志）依頼者人	（フリガナ）	
	氏 名	
令和4年度 琉球大学 検定料 人文社会科学研究所（博士後期課程）		

上記のとおり領収しました。



（取扱店→振込人）

振込依頼書 電信扱

※依頼日	年 月 日	振込指定	電信扱	勘定科目	
※振込先	琉球銀行宜野湾支店（普通）	428711	金額	¥ 30,000-	
	沖縄銀行我如古支店（普通）	1540366	現金		
	沖縄海邦銀行真栄原支店（普通）	0563358	内訳		
	みずほ銀行那覇支店（普通）	1478859			
口座受取座名	コカゾク 財 株式会社 リョクホウカク 財 株式会社 国立大学法人 琉球大学				
※募集区分	711	※フリガナ			
※（志）依頼者人	氏 名				
	※（住所）				
（電話番号）					
備考	令和4年度 琉球大学 検定料 人文社会科学研究所（博士後期課程） 【納入期間】 令和4年1月7日（金）から 令和4年1月21日（金）まで				

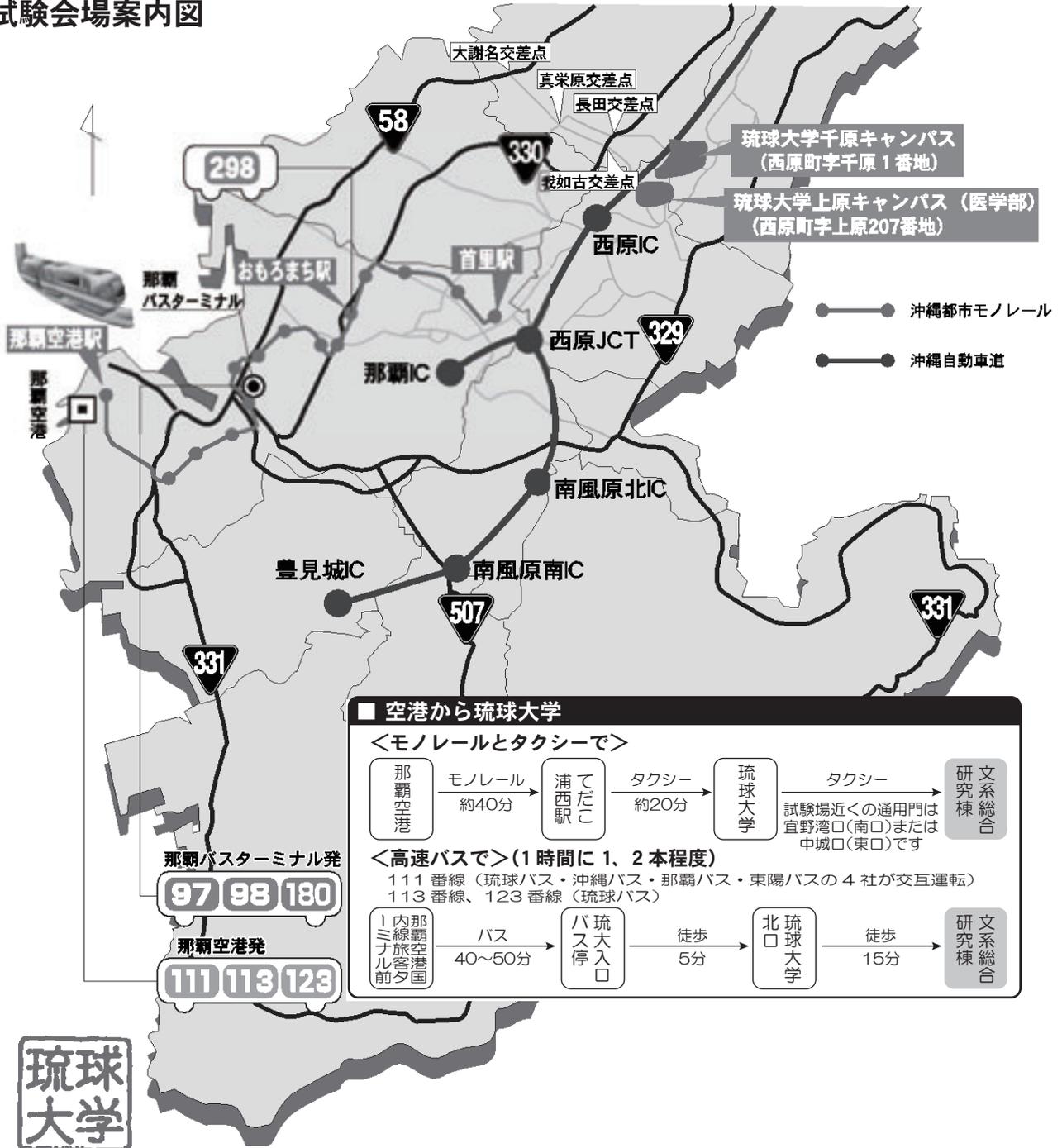
取扱店へのお問い合わせは、お電話してください。
 ○ 募集区分、フリガナを打電してください。
 ○ 口座受取座名、フリガナを打電してください。
 （振込時金融機関で切離し）

（電話番号）



（取扱店用）

琉球大学（千原キャンパス） 試験会場案内図



■ 空港から琉球大学

<モノレールとタクシーで>

那覇空港 → モノレール (約40分) → 浦西駅 → タクシー (約20分) → 琉球大学 → タクシー → 文系総合研究棟
試験場近くの通用門は 宜野湾口(南口)または 中城口(東口)です

<高速バスで> (1時間に1、2本程度)
 111 番線 (琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運転)
 113 番線、123 番線 (琉球バス)

那覇バスターミナル発
 那覇空港発

97 98 180
 111 113 123

内線旅客ターミナル前 → バス (40~50分) → 琉球大学バス大入口 → 徒歩 (5分) → 北琉球大学 → 徒歩 (15分) → 文系総合研究棟



■ バスターミナルから琉球大学

<路線バス> (各20~40分に1本程度 / 所要時間: 97番→約60分 98番→約50分)

【琉大東・北口方面 97番線】

バスターミナル → バス (国際通り(牧志) - 儀保(首里) - 琉大附属病院 経由) → 琉大東口 → 徒歩 (5分) → 文系総合研究棟

【琉大北口方面 98番線】

バスターミナル → バス (国際通り(牧志) - 真栄原 - 冲国大前 経由) → 琉大北口 → 徒歩 (15分) → 文系総合研究棟